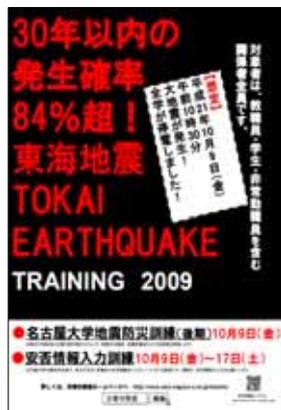


東海地域を脅かす 巨大地震災害と 名古屋大学の防災

平成21年度 後期
名古屋大学地震防災訓練
安否情報入力訓練

災害対策室



今年度のポスター

大学における地震防災:何をすべきか

- 数万人を擁する組織としての責任
 - 構成員の安全、事業(講義・研究)の継続と早期復旧
 - 教員、事務、学生、それぞれの責任と役割を明確に
 - 地域に対する専門的・人的貢献
- 学内の安全性向上のために
 - 建物の改修・・・進行中
 - 室内の安全性向上・・・特に危険物、重量物
 - 自宅の安全性・・・軽視しがちだが、最も重要
- 災害時の適切な対応のために
 - 部局災害対策本部、防災隊、マニュアル、備蓄等の整備
 - 避難・消火・救命訓練などによる意識と対応力の向上
 - 安否確認、防災無線、緊急地震速報等の整備



兵庫県 / 防災科学技術研究所E-ディフェンスによる実験



兵庫県 / 防災科学技術研究所E-ディフェンスによる実験



名古屋の地震危険度は国内有数

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

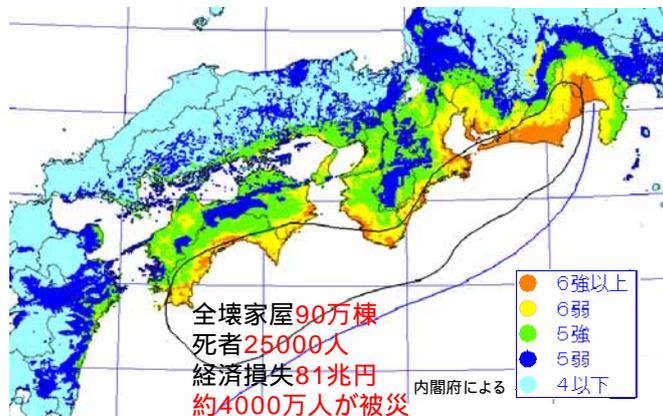


大きな地震被害は
「全国どこでも起こりうる」が
東海地域は別格で、
「近い将来にほぼ確実に起こる」



(文部科学省地震調査研究推進本部による)

プレート境界の3大地震...連動すれば広域巨大災害

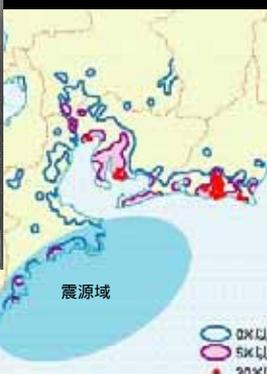


全壊家屋90万棟
死者25000人
経済損失81兆円
約4000万人が被災

内閣府による

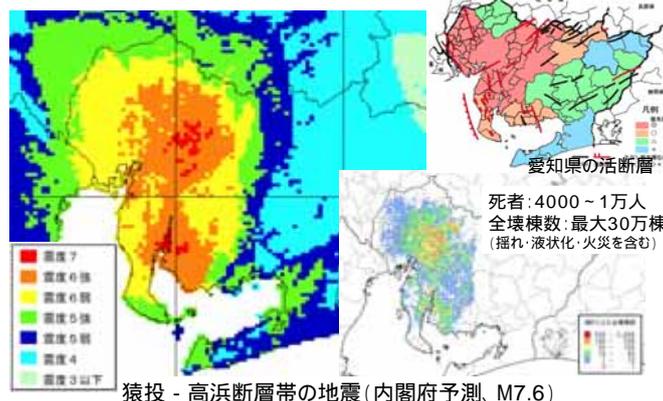
東南海地震

1944年(昭和19年)12月7日、死者1200人以上(?)



60数年が経過。
最近の地震でも、
良く揺れる場所は同じ。

活断層の地震がおこれば...



死者:4000~1万人
全壊棟数:最大30万棟
(揺れ・液状化・火災を含む)

猿投 - 高浜断層帯の地震(内閣府予測、M7.6)

三河地震

1945(昭和20)年1月13日
西三河中心に震度6~7
死者2300人以上



深溝断層のあと



東海地震の警戒宣言

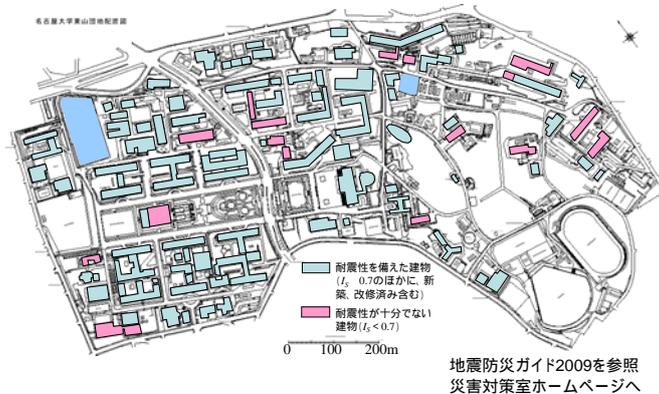
- 静岡県周辺の観測網により、東海地震では、事前に発生を予測できる可能性がある。
- 前兆現象の場所などにより困難な場合もある。
- 観測網で異常があれば**注意情報** **予知情報**
- 注意情報で対応開始。
- 予知情報の場合は**警戒宣言**。生活に大きな制約。
- 予知のみに頼らず、建物や室内の耐震性能の向上、発生後の生活準備等を行うことが重要。

東山キャンパスの地震災害

- 東海・東南海地震で、震度6弱程度。
- 県の被害想定で、名古屋市内は人口250万人に対して死者210人、負傷者18,000人
- 人口比では、東山で死者1.7、負傷者144
ただし、薬品や重量物などがあれば...



東山キャンパスの建物の耐震性



室内の安全

- 危険な薬品・物質・機械、重量のある機材
 - 保管方法、災害時の対処方法など確認
 - 機材や家具の固定
- 滞在する人の対応の徹底
 - 危険回避、迅速な対処、消火活動など



停電(災害時の現実的な想定)

- 電話・ファックス・メール・TVなどが使用不可
 - 緊急連絡や報告の障害。キャンパス内でも深刻。
- 照明、自動ドア・電子ロックなど
 - 避難経路の障害。夜間ならさらに深刻。
- 給水、トイレ、エレベータなど
 - 建物使用・生活の障害。「使わない」の徹底。
- 情報機器、重要データの障害
 - 非常電源の準備、バックアップの徹底

地震時の対応ガイド(案)

各部署所につき1枚ずつ備えてください

避難場所は 災害時発生直後(建物内)

状況報告は 避難してからの状況(建物外)

地震発生から避難までの時間

1分-2分

身の安全の確保

逃げ道の確保

怪我人の把握

数分

部屋の安全確保

被害状況確認

避難

状況報告

10分-15分

対応の詳細については、各部署地震防災マニュアルに従ってください

対応マニュアル 対応ガイドなど

- 各部署の状況を踏まえたマニュアルが整備されている。
- 部屋ごとの危険性をふまえて、対応ガイドを作成する。
- ひとりひとりが、自分自身で確認する。

部局災害対策本部、防災隊

- 部局単位の対応が原則
 - 建物ごとの対応に移行中。
 - 災害時には、本部指示だけでなく自律的に対応
- 防災隊
 - 避難、被災状況確認、消火、救命・救護などの役割
 - 腕章で明示



安否確認

- 発生直後は、救急対応も含めて、直接確認を行う。
- 1～数日以降は、授業再開に向けて全員の安否の確認。
- 名大ポータルによる安否確認システムが稼働中。
- 大学からの緊急連絡のため、メールアドレス登録が必須。
- メールアドレスの登録と、安否情報の入力訓練を必ず行ってください。

名古屋大学ポータルに
緊急連絡用メールアドレスを
いますぐ登録してください。
学生・教職員全員が対象です！

安否情報の入力の依頼など、大学からの
緊急かつ重要なお知らせに使用します。

登録の方法

名大ポータル (<https://mynu.jp/>) にログイン
して、最初のページにある「メールアドレス登録
キャンペーン」から登録ページに行きます。

常に確認しているアドレス、および携帯電話の
アドレスを入力してください。

災害時の安否情報入力
大規模な災害時は、名大ポータルを用いて、構成員全員が自らの安否情報を入力
することになっています。これにより大学の再開などの重要な判断を行います。

メールが送信される場合
災害時の非常事態で一定の時期に安否入力が必要ない場合は、中絶登録する
アドレスに、安否入力を依頼するメールを出します。これにも対応せず、連絡がない
場合は、大学側で状況が把握できないため災害対応に大きな変更があります。
そのほか、インフラエンジニアが災害時の緊急連絡や、学務部の緊急事項を送信します。
従って、メールアドレスの登録がないと不利益が生じる可能性があります。

詳細は「緊急連絡」ホームページ <http://www.saku.nagoya-u.ac.jp/sakaku/>
メールアドレス登録センターは2009年9月1日（金）の稼働で終了します。

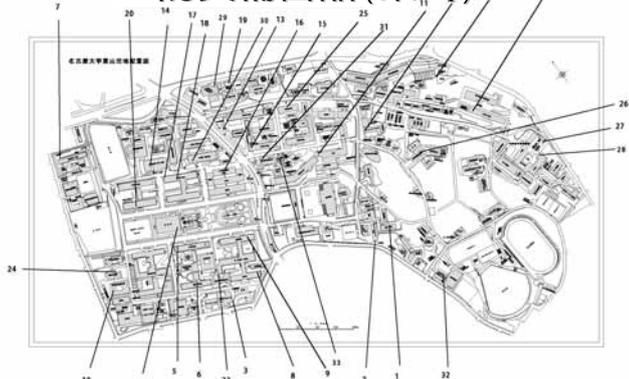
災害対策室ホームページをご覧ください

救急救命訓練



- 大規模災害時は、キャンパス
内で多数のけが人の可能性。
- 救急車や医療担当者の支援
は期待できない。
- 一刻を争う救急救命の知識・
技術は、日常から必須。
- 毎年、250人ずつ実施予定。
他の機会も活かしてなるべく
多数の受講を！

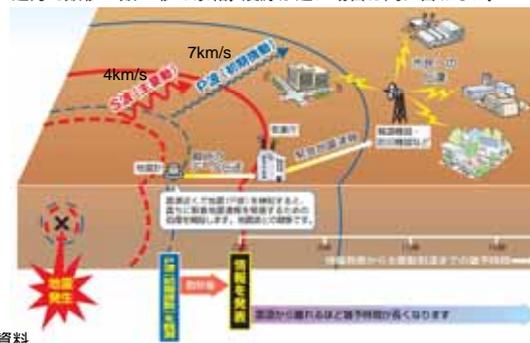
防災備蓄品(東山)



飲料水・食料等は災害対策要員分のみ。個人用は各自で準備のこと。

緊急地震速報

地震発生による初期微動(P波)を震源近くの地震計でキャッチ。
強い揺れ(S波)が到達する前に情報を伝え、揺れに備える。
遠方で数秒～数10秒の余裕。震源が近い場合は間に合わない。



気象庁資料



毎年、新入生などに配布。災害対策室ホームページからダウンロードできます。

大切なことは... 命と健康。次が生活。

- 安心して身を守れるところに住む。
 - 地震に強い建物(耐震性)
 - 室内の安全確保(家具の固定など)
 - 地域の安全確保(危険箇所の確認と改善、救助)
 - 災害時の危険への対処(身を守る方法、連絡等の確認)
- 災害時の生活を守れるように準備する。
 - 食料や水、非常用品の準備、職場でも準備、備蓄
 - 家族・組織の行動の確認、連絡方法、安否確認、防災会議
 - 地域のつながり、分担、助け合い
 - 行政との連携、ボランティアとの協同...

ほとんどは、事前の「備え」でできる！